

第2回桜井市地域公共交通活性化再生協議会会議要旨

- 日 時 平成24年1月25日（水）午後1時30分
- 場 所 桜井市役所 本庁3階 第1会議室
- 出席者 協議会委員10名（うち、代理出席者7名） 事務局3名
- 会議内容
 - 1. 挨拶 桜井市市長公室長 笹谷清治
 - 2. 「平成23年度実証運行結果及び事後評価について」
 - 【事務局説明】
 - ・ 資料のとおり説明
 - ・ 事後評価案については本協議会で承認された後、国の方へ提出していくことになる。
 - 【質疑応答】
 - ・ コミュニティバスの目標値はどのように決めているのか。
→朝倉台線は利用者が減少していく中で、運行開始当初の1便平均実績（約12人）に戻そうとして設定した。多武峯線の目標値は、前年の奈良交通利用実績をもとに、利用客の増加を目指して設定した。
 - ・ 桜井初瀬線の目標値は設定していないのか。
→桜井初瀬線は、実証運行等を行うために策定した事業計画には含まれておらず、継続して変わらず運行しているため、目標値を設定していない。
 - ・ コミュニティバスの利用者が伸び悩む中、利用促進活動を行うとあるが、どのような事を行うのか。
→・ 現在、不定期ではあるが広報紙に啓発記事を掲載し、啓発活動を行っている。それ以外の啓発活動も具体化はしていないが、来年度実施していきたいと考えている。
また、自治会等でも積極的に啓発活動を行っていただいている。今後は、住民と協力しながらさらに利用促進活動を行ってきたい。
・ 現在、広報での啓発活動とは別に、自治会等を通じて住民に「もっとバスを利用しましょう。」と呼びかけている。
→赤字が膨らむ中で、具体的な利用促進活動がないと厳しいと思

う。

- ・ デマンドタクシーのダイヤ改正で、改正前と改正後の利用実態を比較できるものはないか。
→ 1便平均利用者数は、平成22年10月は4.4人（月曜日5.0人、木曜日3.9人）、平成23年10月は6.1人（月曜日6.1人、木曜日5.6人、金曜日6.6人）と利用者は増加している。
→ そのような資料が欲しい。

異議なく、承認される。

3. 「平成24年度桜井市コミュニティバス及び予約型乗合タクシーの運行計画について」

【事務局説明】

- ・ 資料のとおり説明

【質疑応答】

- ・ 来年度のコミュニティバスの運行便数等は現行どおりとあるが、現在運行経費等の面で協議しているところである。その結果次第では運行計画の変更もあり得るということをご理解いただきたい。
→ ・ 現在、現行どおり運行できるように運行経費等の面で協議しているところである。4月からの運行になるので、期間が短いこともあり、運行便数の変更等があれば、地域の住民、関係者との合意形成を図ることは難しいと考えている。
今後、仮に運行計画の変更等が生じることあれば、その都度検討していくことになる。
 - ・ 最終的には3月議会を経て、市の予算は成立するので、そういう意味では確定とはいえない。
- ・ 竜吟荘の利用者が減っている。（H19年度51,908人、H20年度51,537人、H21年度12,270人、H22年度10,009人、H23年4月～12月は6,009人）
利用が少なくなった原因は、H21年度に浴場が無くなった影響もあると思うが、交通手段（バス）が無くなったことが非常に大きい。特に、60歳を超える女性はほとんど自動車を運転しない。
また、竜吟荘で活動している趣味の会（カラオケ、民謡など）が14支部あったが、現在は4支部しか残っていない。これも移動手段が無いためだと思う。
老人クラブの会員数も10年ほど前は6千人を超えていたが、現在5千人を割り、かなり減っている。これも、会議等の会合をするに

も移動手段が無く、参加できないことが原因と思う。

竜吟荘が高齢者の交流の場、憩いの場、楽しみの場となるように活用していかなければならない。

→高齢者総合福祉センターの浴場は休止であり、行革期間終了後については担当部局で検討している。しかし、送迎バスは廃止となっている。

また、桜井駅からコミバス多武峯線が運行している。桜井駅までの移動手段は空白地となっているところがあり、解消していかなければならない検討課題である。しかし、現在の財政状況では現状のコミバス、デマンドタクシーを運行していくことで手一杯である。

- ・ 竜吟荘の最寄りのバス停からは坂があり、高齢者には大変である。
→路線バスは原則バックできない。高齢者総合福祉センターの駐車場でバスが転回する必要があるが、現状ではできない。

- ・ 1月20日に老人会女性部の推進委員による会合があったが、コミバスの時間に合わせて13時15分開始としている。帰りのバスは14時40分しかない。審議時間がなく、単なる報告、連絡会になってしまっている。

→交通分野と福祉分野としっかりと整合性をとりながらしていきたい。

- ・ 実績から判断し、計画を見直すことはなかなか難しい。そこで県では今年度から市町村に対して、コミバス等の効率化に向けた調査・研究、計画づくりの支援制度を設けている。今年度は樫原市、大和高田市などが活用している。来年度も4月か5月頃募集する予定なのでぜひ活用していただき、運行計画等を見直し、改善して欲しい。

→ぜひ活用していきたい。本市のコミバスも業績の悪い路線がある。平成24年度には見直しを行い、改善に努めたい。

異議なく、承認される。

4. 「生活交通ネットワーク計画の策定について」

【事務局説明】

- ・ 資料のとおり説明

異議なく、承認される。